

頑張れ!
ルーキー.....①

rookie FIGHT!!



「海の日」に表彰!

長崎市立野母小学校の海岸清掃活動

長崎県の海岸線は北海道に次いで全国2位の長さ。
でも、長いだけじゃ自慢にはなりません。
美しい景観を保ってこそ、価値があるのです。
そこで今回は、海岸愛護団体の活動をクローズアップ!

美しいふるさと自分たちの手でまもう

長崎市内に12団体登録されている海岸愛護団体の中でも、特にその活動が高く評価されているのが長崎市立野母小学校の海岸清掃活動(通称ゴミフ)。「自分たちのふるさと、自分たちの手でまもう」を合言葉に長年清掃活動を続け、活動の中心である年3回のゴミフは野母小学校の「伝統行事」として受け継がれています。今年の「海の日」には、「海をきれいにする活動」に貢献したとして国土交通省九州地方整備局長表彰を受けることになっており、ますます今後の活動に熱がはいりそうです。

取材にうかがったのは6月下旬に行われた「春ゴミフ」。心配された雨もあがり、小学校近くの荒切海岸あらいきりに元気いっぱいの表情で集まった全校生徒79人と先生たち。小学校の活動に合わせて、地域の人たち約20人も手伝いに駆けつけました。

大量に流れ着いた海藻の上にビニールやプラスチック製品を中心とした燃やせないゴミがたくさん広がる中、高学年が慣れた手つきでリードしながら、中学年、低学年も小さな手でゴミを拾い集めます。またこの日は、長崎土木事務所から借りた熊手が大活躍。みんなのがんばりで、約1時間ほどたつと、海岸は見違えるようにきれいになりました。



「子どもたちの力はすごい。誇りある伝統行事を、これからも大切にしていきたい。」と校長先生(右)と教頭先生(左)



「海岸の清掃活動を通して、子どもたちの心に環境への関心が高まってきています。また、活動をする上では行政からの支援が心強い。今日も熊手を5本ほど借り、ジュースやゴミ袋などをいただき、助かりました。」と田中一壽先生。

注目される愛護団体の取り組み

「美しい国づくり」が唱えられる中で、景観の維持は重要なテーマの一つであり、それには地域住民の清掃活動への参加の仕組みづくりが今後の大きな課題といえます。愛護団体の活動は、たとえそれぞれの取り組みのエリアは狭かったとしても、その数が増えることで大きな成果をもたらします。長崎県では、県内の河川・海岸・道路・港湾・漁港・都市公園・砂防公園などの清掃美化活動に取り組む団体を「愛護団体・アダプト団体」として登録し、その登録団体の活動に対し支援を行っています。

お問い合わせ◎長崎県土木部関係地方機関

または長崎県土木部河川課管理班 ☎095-822-0397

